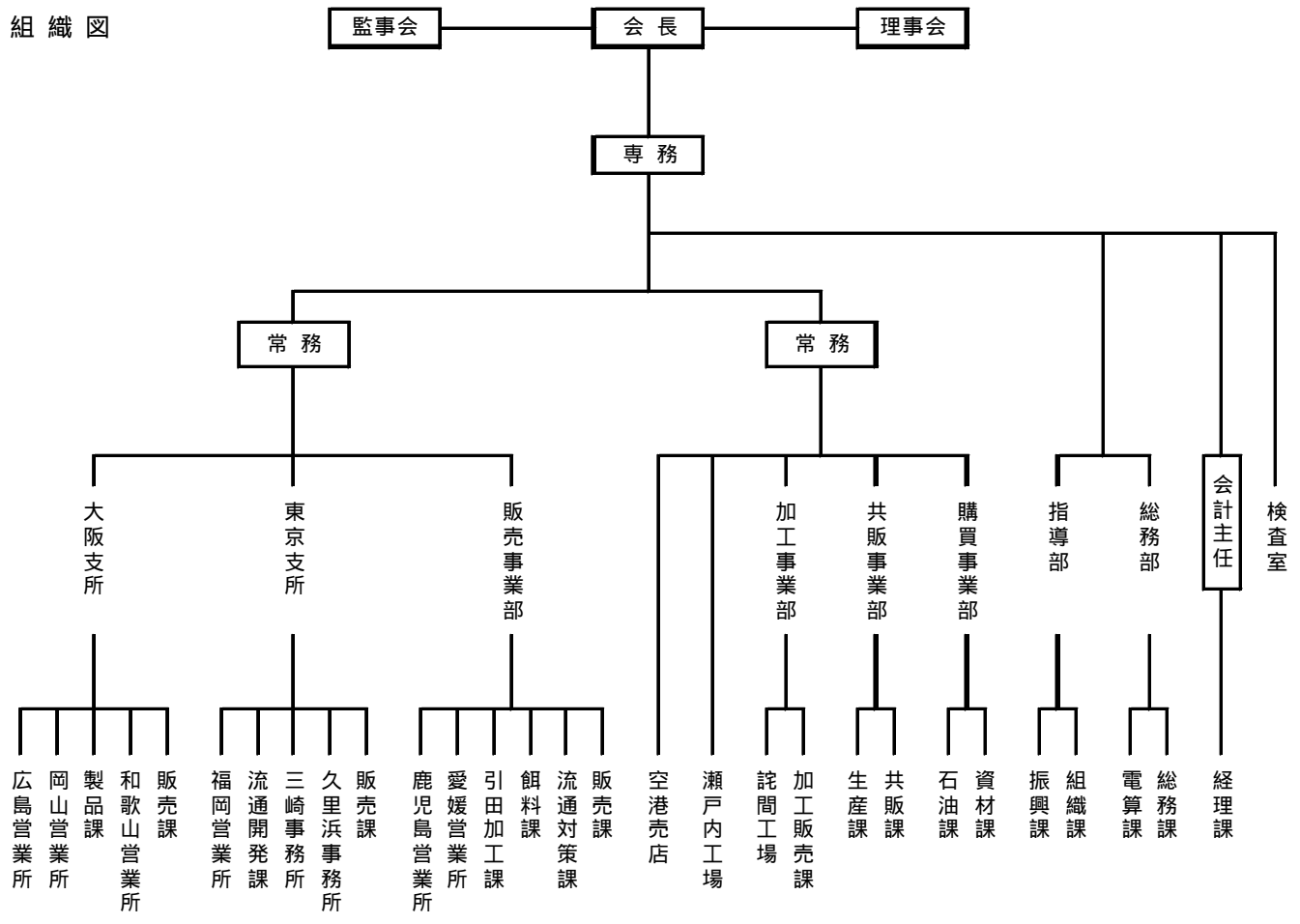


人と魚と海のネットワーク 香川県漁連ホームページ http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/ E-mail:gyoren@kagawa-gyoren.or.jp		 高松市北浜町 8 - 25 TEL 087-825-0350 FAX 087-851-0699 J F 香川漁連
--	--	---

漁連の新組織 4月1日スタート

4月1日本会の機構改正が次の通り行われた。
 検査室が、部レベルに昇格。加工事業部の原料課が加工販売課に統合。引田に今秋フィーレ加工工場が竣工することに伴い、販売事業部に引田加工課が新設された。

組織図



人事異動内容 (課長级以上)

氏名	(新)	(旧)
藤井 芳治	検査室長 (部長級)	同左 (次長級)
小浜 博	購買事業部長	購買事業部長代理
米田 正義	販売事業部次長 兼引田加工課長	大阪支所次長 兼製品課長
有田 博一	販売事業部次長 兼流通対策課課長	販売事業部次長
宮本 交	経理課課長	経理課課長補佐
鶴身 豪	加工事業部加工販売課課長	加工事業部原料課課長
田井 良彦	販売事業部引田加工課課長	販売事業部流通対策課課長
服部 久美子	東京支所販売課課長	東京支所副調査役

三重県志摩の国漁協の合併について

平成 15 年 12 月 12 日、長崎県にて JF 長崎漁連主催による「漁協管理職員研修会」が開催され、漁協合併の取組みや合併後の事業運営を学ぶため、三重県より志摩の国漁協の山下総務部長が招かれた。

山下氏は同漁協の合併協議のスタート時点から責任者としてタッチし、平成 14 年 7 月 1 日、18 漁協の参加による誕生に際し、県漁連より出向の形で総務部長として同漁協の経営改善指導にあたられている。

その経験をもとに、同漁協の合併の必要性や合併協議にあたっての諸課題をどのように乗り越えたか、さらに、合併後の漁協運営に直接タッチされていることで広域合併漁協がかかえる運営上の問題と、その対応等について、「生の声」として、わかりやすく話がすすめられた。

講演概要は以下のとおり。

< 合併の必要性 >

合併は漁業の発展のため、獲ってきた魚を売る場を維持していくということである。まさに、販売事業を中心に漁協の経済事業の建て直しにある。過去の多額の欠損金等を抱え、漁協の事業が縮小され、魚を売る場がなくなれば、漁業も衰退し、連合会の事業もままならなくなる。多額の欠損金を解消し、漁業、漁協の発展のためには大型合併しかないとして取り組んできた。

合併した漁協は、地区内 21 漁協に対し 2 漁協がはじめから不参加、1 漁協が総会で否決、最終的には 18 漁協で誕生することになるが、回収不能債権、各種引当不足、欠損金合わせて 215 億円あり、このままいくと毎年 5 千万円赤字が増える状態で破綻が懸念された。そのため、この地区の基幹産業である漁業が衰退し地域経済が冷え切ってしまうという危機感を持って取り組んだ。各漁協において合併直前 11 億円の欠損金を積立金等で一部補填し残った 8 億円を合併漁協に持ち込み、自己資本が 1 億 2 千万円のマイナスという厳しいスタートとなった。

この地域においては、漁協の収益は販売手数料と漁場料が中心で、加えて信用事業があったことから、経営努力なしに資金繰りも心配なく運営ができてきたことで、おのずと経営者の観念を持った人材が育ちにくかった。やはり、漁協は販売、購買事業中心とする経済事業に対する努力が必要であり、合併し

て個々の力を結集し、販売力やノウハウを持っている連合会と一体となり経営に取り組んでこそ活路があると思われる。

< 合併の困難さ >

合併が難しい要因としては、まず「組合長職がなくなる事への不安」「慣れ親しんだ漁協がなくなる感情的不安」「地域の土地等の財産が持っていられるという不安」等様々な不安からきており、総論賛成、各論反対という状態でなかなか進まない。

また、過去の各漁協の総会では欠損金は業務報告で公表されてきたが、不良債権や引当不足等は隠れており本当の漁協の姿が十分に説明されていなかった。このため、どこの組合員でも「うちの漁協が県で一番立派な漁協であるのに、何故合併しないといけないのか」という意識にあり、合併の必要性が実感できない状態にあった。

< 合併推進の取り組み >

合併推進では、まず、欠損金等の内容をオープンにすることを心掛けた。加えて、合併協議の内容、経過等を“合併だより”で紹介するとともに、具体的な協議に入る前、ある程度協議内容が固まってきた段階において、組合員集会を積極的に開催してきた。結果、委員会 15 回、各地区での夜の集会を含め 160 回以上にものぼる会議、集会を重ねることとなった。

推進段階からこだわってきた事項もある。その一つは、漁協の名称である。その基本は、“さかな”が売りやすい名称をとというこだわりをもって「志摩の国」とした。今では、志摩の国漁協の名称の入った加工食品等はブランド力があるとして、ホテルやみやげ物屋等から引き合いがきている。

一方では、設立準備に対する事務が予想以上に激務であった。漁業権に関する変更や事務処理の統一、コンピューターの導入等は勿論、合併に関する書類整備、登記等などもかなりの労力を要した。

反省点としては、経済事業の決済条件等、組合員に直接かかわる事項は合併協議時にもっと詰めて事前に組合員に十分説明しておかないと、合併後に各地区の組合員から批判の集中砲火を浴びることとなる。

志摩の国漁協の合併の特徴は、協議開始から合併総会まで 12 ヶ月、合併総会から設立委員会まで 3 ヶ月、設立委員会から誕生まで 3 ヶ月で行ったという非常に短期間で合併が実現したこと。また、漁協の財務格差を調整するための厳しい合併参加条件があげられる。

< 合併後の取り組み >

合併は、漁協の運営にあっては、18の漁協があれば、18のやりかたをひとつの方法に統一することにあり、その難しさがある。加えて、地域エゴ、要望のみならず、各地区から不平不満や批判が本所に集中し、その対応も大変である。合併後の運営はうまくいって普通、うまくいかなければ、批判や責任問題がでてくることの覚悟が必要である。

漁協の維持のため、収益を“海”のみに頼れば、手数料を上げるしかないが、“陸”にも目を向け、プロパンをはじめ、海を汚さない無洗米の販売、ミニローリー整備による灯油の宅配や介護用品のレンタル事業など、新規事業を開始した。最近では、協同会社を立ち上げ、水産物の販売先を模索し始めた。今年のお歳暮商戦では、初めて職員にノルマをかけて取り扱いアップを図っている。やはり、自分の給料は自分で稼ぐ意識が必要である。

また、経済事業においては、連合会の仕入れ、販売力は大きいので、漁連とのコラボレーション(協業)を図っていくことが重要である。連合会と業務分担しうまく連携して漁協は発展していかなければならない。

< 浜の管理の重要性 >

漁協に出向して痛感したのが、“浜”の管理の重要性、必要性である。操業期間、規制等の“浜”の管理が厳しくされている地区は、漁業も活発で旧漁協時代も順調であった。一方、アウトサイダーの違反操業を野放しするなど、地区の決まりを乱しているところは、漁業も衰退し、地区に活力がないことが、漁協に出向し仕事をしてきたことで確信が持てた。今後の漁協運営においては、経済事業の重要性に加え、“浜”の管理のあり方が漁業発展の鍵となる。

(J F 全漁連合併推進部 協力： J F 長崎漁連)
平成 16 年 1 月 9 日付全漁連発行「合併等推進ニュース」より掲載

とともに、海の環境を守る運動の一環として「海を愛する子供たちの作品展」が開催される。作文、絵画・習字の作品募集については、以下のとおり。

締切が、作文が 5月28日、絵画・習字が 7月16日なので早めに学校を通じ応募願います。優秀な作品については、天皇・皇后両陛下が御覧になり、式典での表彰等が予定されていますので奮って応募ください。

< 応募要領 >

(作文)

- (1) 題材：海または水産業に関するものであれば、テーマは自由とします。
- (2) 応募資格：県内の小学校・中学校・高等学校及び盲・ろう・養護学校の小学部・中学部・高等部の児童・生徒。
- (3) 募集部門：募集の対象は、下記の3部門とします。また、各部門とも盲・ろう・養護学校を含みます。
 - 小学校低学年の部(1年生から3年生)
 - 小学校高学年の部(4年生から6年生)
 - 中学校・高等学校の部(中学1年生から高校3年生)
- (4) 原稿：400字詰原稿用紙上記 小学校低学年の部は3枚以内、高学年の部は4枚以内、中学校・高等学校の部は5枚以内とします。原稿には、標題、学校名、学校所在市町村名、学年、氏名(ふりがな)を明記してください。

(絵画・習字)

- (1) 題材及び規格： 絵画の部：「海」、「水産業」に関するもので四つ切画用紙とします。 習字の部：課題は小学校1年「のり」、2年「はまち」、3年「さわら」、4年「島」、5年「豊かな海」、6年「白砂青松」、中学校「栽培漁業」で半紙大の用紙とします。 作品には、学年・氏名のみ記入してください。
- (2) 応募資格：県内の小学校・中学校及び盲・ろう・養護学校の小学部・中学部の児童・生徒。

第24回全国豊かな海づくり大会 各種コンクール作品募集開始!

10月3日サポート高松で開催される「第24回全国豊かな海づくり大会」を記念し、海を愛する子供たちに漁業に対する理解と認識を高めてもらう

主な行事予定(4/1~4/30)

- 4月 1日(木) 新入職員入会式
棚卸監査
漁連監事会
1(木)~5(月) 新入職員研修